# 生物多様性アクションブック

「国連生物多様性の10年」から2030年に向けて一 発行: 国連生物多様性の10年 日本委員会





# はじめに

生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)で採択された「愛知ターゲット」の達成を目指して、2012年に閣議決定した「生物多様性国家戦略2012-2020」の第2章第1節に、「生物多様性の主流化の推進」について記載があります。

要約すると、「身近な自然における体験や、フィールド調査、ツーリズム、環境教育などを通して自然の恵みを実感できる機会や、自然と共生してきた地域文化等の体験の機会の拡大を図ること」、「生物多様性のさまざまな価値の経済的評価によって、さまざまな主体の意思決定の場面に生物多様性の価値が反映されるように促すこと」、「生物多様性に配慮した商品やサービスの認証制度などの普及啓発に取り組むこと」などです。

そのためには生物多様性条約第13条「公衆のための教育及び啓発」のキーワード「CEPA(Communication, Education and Public Awareness)=コミュニケーション、教育、普及啓発」をベースとする活動を実践することが重要でした。

私たち「国連生物多様性の10年日本委員会」(UNDB-J)が推進している「MY 行動宣言5つのアクション」は、国家戦略に唯一記載されている効果的なCEPA 活動を進めるための普及啓発ツールです。2013年から2019年まで実施しした「生物多様性アクション大賞」では、この5つのアクションに沿った具体的な取り組みに対して表彰を行いました。

全国から生物多様性の保全や持続可能な利用につながる活動を募り、「たべよう部門」「ふれよう部門」「つたえよう部門」「まもろう部門」「えらぼう部門」の5部門で「優秀賞」を選定し、さらに「優秀賞」の中から「大賞(大臣賞)」を選定しました。

「生物多様性アクション大賞」を実施するなかで、生物多様性に取り組む団体のイメージに大きな変化がありました。開始当初は、環境保全を中心に各地で実績のある団体からの応募が多数を占めましたが、後半は、その地域で育つ若い世代が中心となって地域経済と一体となり、さまざまなステークホルダーとのパートナーシップを結んだ多様な活動が受賞を果たしています。また、企業からの応募も、地域貢献のための保全活動にとどまらず、企業価値向上につながる本業での成果が増えてきました。

SDGsの認知・理解が広がることによって環境・社会・経済を同時に考え、取り組む思考が浸透した背景もありますが、こうした変化は生物多様性の本質の理解を、世代や立場を超えて広げていく CEPA活動のひとつの成果と考えています。

「国連生物多様性の10年」は幕を閉じ、2021年からは「国連生態系回復の10年」が始まります。生物多様性が未来への財産となるよう、"10年"の変遷を本冊子「生物多様性アクションブック」から読み解いていただき、次の"10年"に向けた皆さまの取り組みのヒントにしていただけたら嬉しく思います。

2021年3月 国連生物多様性の10年日本委員会

# 「国連生物多様性の10年」をめぐる年表

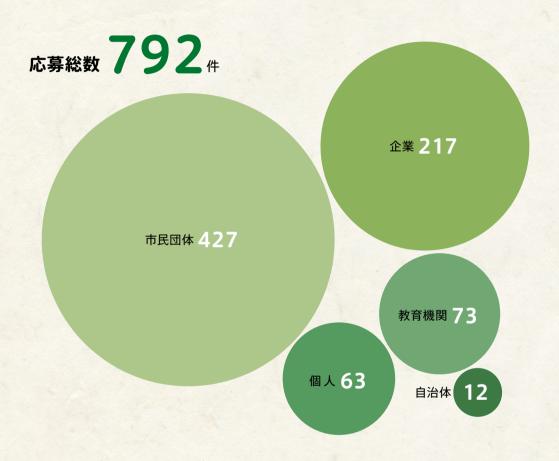
緑:生物多様性条約に関わる動き 赤:気候変動条約に関わる動き 青:SDGsに関わる動き



# 生物多様性アクション大賞の成果 1



国連生物多様性の10年。この間、世界の状況は大きく変わりました。SDGsやパリ協定など 歴史的な合意がなされた一方、世界各地で気候災害が増え続け、最終年の2020年には世 界全体が新型コロナウイルス危機に見舞われました。この試練を乗り越えるために、それぞ れの場所で、草の根の市民の想いや知恵が発揮されることが大切です。生物多様性アクショ ン大賞は、日本のなかに、その可能性をみつけるプロジェクトでした。





リーフレットとホームページを毎年作成し、広く告知しました。 ホームページには審査結果や審査評、受賞団体の活動内容などを掲載しています。 全7回の開催で、のベ792もの応募がありました。市民団体だけでなく、 企業からの応募も多数いただきました。





2013年から2019年までの優秀賞受賞団体を5つの部門ごとに紹介します。

※受賞当時の団体名や活動内容を掲載しています



# たべよう部門

環境負荷が少なく、その地域、季節の生きものたちの恵みでもある、地元でとれた食材や、旬の食材を使って地域の食文化を掘り起こす活動です。

キーワード:自給自足、家庭菜園·市民農園、伝統食、地産地消、旬産旬消、食育、フードマイレージ など

### 2013

# 滋賀・琵琶湖の伝統食作りアイキッズ~エコアイディアキッズびわ湖~(滋賀県)

http://5actions.ip/eat/i\_kids/

子どもたちが滋賀県の伝統食作りを通して琵琶湖の恵みに気づき、郷土に愛着や誇りを持つことをねらいにしています。人と人とのつながりを大切にし、新たな食文化を創造することにも挑戦しています。



#### 2014

#### 日和キッチン

日和キッチン(現:カフェ蓮)(宮城県)

http://5actions.jp/eat/hiyori-kitchen,

コンセプトは、よそ者目線で"新たな石巻の食文化"を開 拓することです。石巻の食とレ

シピを研究・発掘・開発 し、それらを観光資源化するための 拠点として「日和 キッチン」という レストランを運営しています。



## 2015

# 竹を食べて放置竹林をなくす 特定非営利活動法人加茂女(京都府)

http://5actions.jp/eat/kamome

放置竹林整備をしているボランティアグループです。切っても切っても生えてくる竹に業を煮やし、「竹を食べて放置竹林を無くそう。」を合言葉として食品開発に取り組み始めました。



# 木の実のシロップ作りと地域の活性化株式会社森と暮らすどんぐり倶楽部(福井県)

http://5actions.jp/eat/donguri/

地域に自生する木の実を使って、シロップを作っています。 シロップに使う木の実はガマズミを中心に種子から栽培しています。現在800本を超える苗木を育成中です。



#### 2017

# 子供たちによるふるさとづくり「牡蠣養殖体験」 石巻市立大原小学校(宮城県)

http://5actions.jp/eat/ishinomaki/

1999年に取り組み始め、震災後も保護者や地域の支援・協力により継続しています。牡蠣養殖体験活動や食体験、海の豊かさを学ぶ森林教室など、これらの総合的な学びを通して復興に寄与できる児童の育成を目指しています。



#### 2018

# 地域循環型野菜を地域共通ブランド に! おかえりやさいプロジェクト(愛知県)

http://5actions.jp/eat/okaeri,

スーパーや学校給食、レストラン、家庭などの生ごみを堆肥にリサイクルし、その堆肥を使って育った野菜やお米を

では、またいでは、その堆肥を使って育った野菜やお米をしてスーパーや給食、ホテルなどに戻す、生ごみ循環利用を推進する取り組みです。

# 2019

# 伝統食材「あかじゃが」「アワバタダイズ」を 活用した地域振興プロジェクト

群馬県立勢多農林高等学校 植物バイオ研究部(群馬県)

http://5actions.jp/eat/setanorin/

高齢化が深刻化しており、貴重な遺伝資源が失われつつ ある群馬県多野郡神流町で活動しています。伝統食材「あ かじゃが」「アワバタダイズ」栽培の復活と活用を通して、 遺伝資源の保存と地域振興に取り組んでいます。





# ふれよう部門

山、海、川、動・植物園などでの自然体験を通じて、自然の 中で遊ぶことの楽しさや、地域の特色、生きものの生態や おもしろさを実感してもらう活動です。

キーワード: 自然観察会、自然体験プログラム、自然学校、インター プリター育成、フィールドミュージアム、エコツーリズム など

#### 2013

流域住民による生物多様性の 保全と教育が一体となった取り組み 雨ふる大地の水辺保全ネットワーク(大阪府)

活動のモットーは「環境保全と環境教育の一体化」です。 小学校での環境教育教材の開発と実践を通して興味を もった子どもが実際の保全活動に参加し、活動を通して 成長し、保全活動のリーダーに育っています。



#### 2014

# 知ろう伝えよう外来生物のこと

石垣市立伊原間中学校(沖縄県)

毎年1年生を対象に、島内で問題となっている特定外来生 物のオオヒキガエルを教材として、生物実験を含む環境教 育プログラムを実施しています。生物多様性保全への理解 と関心を高めています。



#### 2015

#### いきもの広場で遊ぼう

公益財団法人東京動物園協会井の頭自然文化園(東京都)

園内の一部 (1300㎡) を、身近な自然で遊びながら、生き ものを探し捕まえる体験をする場として整備しました。生 息する生きものを見せるのではなく、見つけてもらうこと を主な目的としています。



# リトルファーマーズ養成塾 特定非営利活動法人田舎のヒロインズ(熊本県)

http://5actions.ip/feel/inakanoheroine/

子どもたちに農村の暮らしや里山の自然を体験してもらうだけでなく、農村出身の子どもたちに身近な自然や生きものを再発見してもらうこと、さらには、生きる力(サバイバル能力や対応力)をつけてもらうことを目的とした活動です。



#### 2017

# 勝浦川流域フィールド講座 とくしま生物多様性リーダーチーム(徳島県)

http://5actions.ip/feel/tokushima/

勝浦川源流域から河口域までのフィールド体験を中心に、8日間で全15講義を実施しています。専門家から科学的知見を学び一定の基準を満たした優秀な修了者を、徳島県が「生物多様性リーダー」として認定します。



#### 2018

# JTB地球いきいきプロジェクト 株式会社JTB (東京都)

http://5actions.jp/feel/jtbcorp/

観光地での清掃や地域文化とのふれあいを通して元気な未来を創造していく活動です。環境美化やさまざまな交流を通じ、「地域を元気に、人を笑顔に。」生物多様性の保全に取り組んでいます。



#### 2019

#### 里山保全

川名里山レンジャー隊(神奈川県)

http://5actions.jp/feel/kawanasatoyama,

藤沢駅から徒歩20分程の距離、都市中心部に位置する川名緑地には、約30haの里山が残っています。その中央にある川名清水谷戸の自然を、自らの活動や子どもたちを通して将来に残したいと思い活動しています。





# つたえよう部門

生きものたちのさまざまな色や形、行動を観察し、自然の素晴らしさや季節の移ろいを、写真や絵、文章などで記録・表現し、伝える活動です。

キーワード: 伝承芸能、伝統行事、出版、ウェブ、アプリ、映像、写真、 イベント、ゲーム、アート など

## 2013

## 環境出前授業

株式会社島津製作所 え~こクラブ(京都府)

http://5actions.jp/show/shimadzu-e-club/

絶滅危惧種を題材にしたオリジナルカードゲーム「bidi」を用いて、小学校への環境出前授業を行っています。より身近な問題として生物多様性の重要性を学んでもらう島津製作所「え~こクラブ」の活動です。



#### 2014

# 「渋川いきものがたり」 ~ふるさとのすばらしさを伝えよう~ 渋川いきものがたり作成支援委員会(滋賀県)

http://5actions.jp/show/shibukawa-ikimonogatari/

渋川いきものがたり作成支援委員会は、渋川小学校の全校児童の「生きもの学習」をサポートする組織です。子どもたちが「渋川生きもの絵図」や「渋川いきものがたり紙芝居」を制作する活動を支援してきました。



#### 2015

# 人と自然のふれあい調査

一般社団法人てるはの森の会(宮崎県)

http://5actions.jp/show/teruhanomori/

2008年から宮崎県綾町の4地区で「人と自然のふれあい調査」を実施しています。地域住民と一緒に調査し、地域の価値や生活を知り、想いを掘り起こして、地域の再発見と地域を見つめ直すためのマップや冊子を作成しました。



# 糸島こよみ 糸島こよみ舎(福岡県)

糸島の自然·文化·伝統行事·農事·生きもの(渡り鳥、虫、動 物、花など)などの情報を日めくりカレンダーにまとめてい ます。自然とともにある暮らしの情報を届けるとともに、暮 らしの中で自然を感じるきっかけを提供しています。



#### 2017

# 魚部~人物多様性をもとに、 生物多様性を伝える活動 北九州·魚部(福岡県)

http://5actions.jp/show/gyobu/

自然や生物、自然と人の関わりに関心をもつプロとアマの 約320名が全国31都道府県から集う、人物多様性に富ん だネットワークです。12万人が来場する規模の展覧会を企 画するほか雑誌『ぎょぶる』の刊行など、独自の視点と知 見で生物多様性を伝えています。



#### 2018

# 企業が取り組むはじめての生物多様性 Let's Try Biodiversity!(LTB)

電機·電子4団体 環境戦略連絡会 生物多様性WG(東京都)

生物多様性保全活動を開始する事業者に向けて、比較的 容易な11の活動事例を丁寧に解説した手引書を制作しま した。説明会を各地で展開し、参加者に実際に取り組みを





## 2019

# ノータッチサンゴ エコガイドカフェ(沖縄県)

下地島空港への直行便就航によるサンゴ礁への観光に よる負荷を事前に回避するために、「ノータッチサンゴマ ナーを動画で拡散させるほか、香港や台湾、中国本土、

日本国内などにおける"発 地啓発"、ならびに下地 島空港での動画放映に よる"着地啓発"を行っ ています。



## 生物多様性アクション大賞 2013-2019

# 優秀賞·特別賞受賞団体一覧

全国各地から多数の応募をいただきました。

これほどまでに多種多彩な生物多様性に関する活動が、

日本国内で実施されていることが可視化されたことは、本賞の大きな成果でした。

特定非営利活動法人加茂女 ★ 大賞 2015 京都府

株式会社島津製作所「え~こクラブ」★

京都府立桂高等学校 TAFS「地球を守る新技術の開発班」 ほか入賞 9 件

雨ふる大地の水辺保全ネットワーク ★ 大阪府

特定非営利活動法人ニッポンバラタナゴ高安研究会 \*

パナソニック株式会社 ★

コクヨ株式会社

特定非営利活動法人里山倶楽部 🌕

サラヤ株式会社 ●

地球環境関西フォーラム ●

株式会社スマイリーアース★ ほか入賞6件

兵庫県 海と空の約束プロジェクト●

兵庫県立御影高等学校 環境科学部生物班 •

Blue Earth Project ● ほか入賞 13件

奈良県 入賞3件

認定特定非営利活動法人自然再生センター ● ほか入賞1件 島根県

山口県 入賞1件

岡山県 入賞3件

広島県 入賞2件

とくしま生物多様性リーダーチーム ★ 徳島県

特定非営利活動法人三嶺の自然を守る会

高知県 入賞1件

愛媛県 入賞2件

福岡県 糸島こよみ舎 ★ 大賞 2016

北九州·魚部 (現 NPO 法人) ★ 農林水産大臣賞 2017

糸島コミュニティ事業研究会 ●

筑後川まるごと博物館運営委員会

福岡県立水産高等学校 Project-T 🛑

上西郷川日本一の郷川をめざす会 ●

環境ネットワーク「虹」 ほか入賞5件

佐賀県 特定非営利活動法人嘉瀬川交流軸 ● ほか入賞1件

長崎県 入賞 4件

熊本県 特定非営利活動法人田舎のヒロインズ \*

くまもと☆農家ハンター ★ 農林水産大臣賞 2018

特定非営利活動法人天明水の会

みさを大豆研究班 ●

熊本県立岱志高等学校理科部 ● ほか入賞2件

宮崎県 一般社団法人てるはの森の会★ ほか入賞4件

**鹿児島県** カエル PROJECT ● ほか入賞 1 件

石垣市立伊原間中学校 🛨 沖縄県

泡瀬干潟博物館カフェ「ウミエラ館」●

ジーエルイー合同会社 ●

エコガイドカフェ ★ 環境大臣賞 2019 ほか入賞 5件

**★ 優秀賞** ● 特別賞 ● たべよう ● ふれよう ● つたえよう

※環境大臣賞、農林水産大臣賞は2017年度より設置されました。 ※特別賞は復興支援賞、セブン - イレブン記念財団賞、グリーンウ: ※各県に記載されている数字は、7年間の県ごとの応募総数です。

> 滋賀県 アイキッズ~エコアイディアキャ

> > 湖南 企業いきもの応援団 🛨

渋川いきものがたり作成支援委員 渋川小学校・滋賀の郷土料理学

ササらぎの郷 ●

生物多様性びわ湖ネットワーク

三重唱 三菱ケミカルアドバンスドマテリ 特定非営利活動法人大杉谷自然等

新潟県 新潟市 ● ほか入賞4件

富山県 魚津三太郎倶楽部 •

富山県立大学 ● ほか入賞 3件

石川県 まるやま組 \* 大賞 2014

特定非営利活動法人河北潟湖沼

株式会社森と暮らすどんぐり倶楽

18 17

8

福井県

愛知県 おかえりやさいプロジェクト★ 株式会社加藤建設 🛨 環境大臣賞 環境ボランティアサークル亀の-愛知商業高等学校ユネスコクラ:

なごや生物多様性保全活動協議会

岐阜県 特定非営利活動法人つくしん棒 岐阜県立岐阜高等学校自然科学部

長野県 入當4件

山梨県 富士山アウトドアミュージアム かとうさんち

特定非営利活動法人都留環境フ: 山梨県立吉田高等学校放送部×

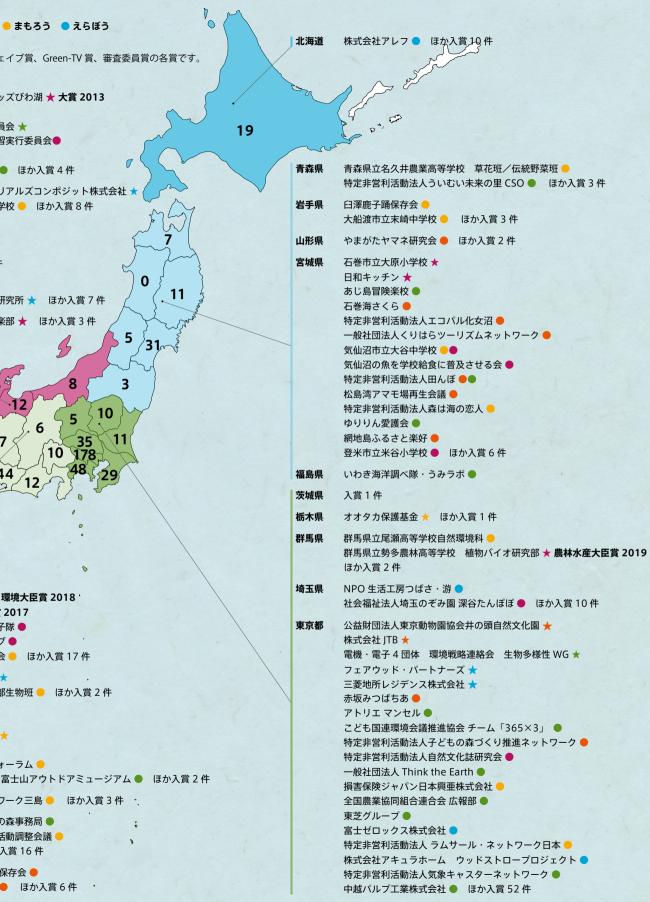
静岡県 特定非営利活動法人グラウンドワ

神奈川県 特定非営利活動法人海の森・山の

特定非営利活動法人小網代野外洋 川名里山レンジャー隊★ ほか

特定非営利活動法人 大山千枚田 千葉県

カシニワ・フェスタ実行委員会





# まもろう部門

豊かな生態系を未来に残すため、森·里·川·海などを舞台に、自然や生きものの調査·保全·再生や、地域文化の保存などを行っている活動です。

キーワード:郷土芸能や伝統行事の保存、山村・里山・流域振興、自 然保護活動、ナショナルトラスト など

#### 2013

高安の里地・里山の伝統的な水質浄化法 "ドビ流し"を応用した生物多様性の保全 NPO法人ニッポンバラタナゴ高安研究会(大阪府)

http://5actions.jp/conserve/n-baratanago/

高安の里地・里山の伝統的な農業技術、溜池浄化法"ドビ流し(池干し)"の効果を応用して、アオコの異常発生を抑制し、外来種を防除しています。在来魚のニッポンバラタナゴを含む生物多様性を保全するための活動です。



2014

# アエノコト まるやま組(石川県)

http://5actions.jp/conserve/aenokoto,

能登の里山「まるやま」に今も息づく豊かな生物多様性と 伝統的なくらしの知恵。毎月行う生きもの調査と集落の農 耕儀礼「アエノコト」をつなぎます。お米を食べている人は 誰でも生きものに「ありがとう」と言っていい、という想い で活動をしています。



2015

# 中小企業連携で進める 生物多様性保全の取り組み 湖南企業いきもの応援団(滋賀県)

http://5actions.jp/conserve/konan/

地域の企業12社が行政・研究機関と連携して、身近な河川「狼川」の6ヵ所の水質と生きもの調査を年4回実施しています。調査結果は報告書にまとめ、参加企業や行政、関係機関、研究者と共有しています。



# 野生動物交通事故調査活動 富士山アウトドアミュージアム(山梨県)

http://5actions.jp/conserve/fuji/ /

富士山麓付近で起こった野生動物との交通事故(ロードキル)のデータを集めて可視化しています。動物のロードキルを減らす糸口を見つけるための取り組みです。



#### 2017

# エコミーティング ~建設業における環境活動~株式会社加藤建設(愛知県)

http://5actions.jp/conserve/katokensetu/

自然と共生できる社会の実現に向けて実施しているミーティングです。受注した建設工事において自然環境を守り回復するために、どのような配慮・対策および工夫ができるかを検討・提案・実施しています。



#### 2018

# 「自分たちの地域と畑は自分たちで守る」 くまもと☆農家ハンターの野生鳥獣対策 くまもと☆農家ハンター(熊本県)

http://5actions.jp/conserve/kumamotonokahunter,

「自分たちの地域と畑は自分たちで守る」若い農家有志のコミュニティです。熊本県内の100名以上の農家に加え、活動に賛同する地域の方々、行政、高校、大学、県内外の企業が協力して鳥獣被害対策に取り組んでいます。



## 2019

# サシバの里づくり オオタカ保護基金(栃木県)

http://5actions.jp/conserve/ootaka/

里山が広がる栃木県市貝町において、里山のタカ「サシバ」を生態系の指標種として位置づけています。行政・地域住民・自然保護団体が協働し、地域資源を活かしながら人と自然が共生する生物多様性の豊かな地域づくりを進めています。





# えらぼう部門

生物多様性のことをきちんと考えて生産・販売された商品やサービスを、その内容を開示し、消費者に提供する活動。または促進する活動です。

キーワード:フェアトレード、トレーサビリティ、グリーン購入、グリー ンエコノミー、エコラベル など

#### 2013

# フェアウッド・パートナーズ フェアウッド・パートナーズ(東京都)

http://5actions.jp/select/fairwood/

「フェアウッド」とは、地域材、認証材など伐採地の環境や 社会に配慮した木材・木材製品のことです。木を使う人が 「森を壊さない木材の選び方」を実行することで木の流通 を変え、世界の森林を守ることを目的としています。



#### 2014

#### 生きもの元気米

NPO法人河北潟湖沼研究所(石川県)

http://5actions.jp/select/kahokugata-lake-institute/

農薬の空中散布をせずに畦の除草剤も使わない「生きもの元気米」。田んぼ一枚ごとに生きもの調査を実施して、その田んぼにいる生きものをパッケージに表示します。どこのどんな田んぼで誰が作ったのかがわかるお米です。



## 2015

#### **BIO NET INITIATIVE**

~いのちをつなぐ街づくり~

三菱地所レジデンス株式会社(東京都)

http://5actions.jp/select/bionetinitiative/

マンション供給時に、敷地の大小に関わらず全物件で生物多様性保全のための植栽計画を立て、「点」と「線」そし

て「面」へとエコロジカルネッ

トワークを形成して、その 大切さを生活者に理解 してもらうために広め る取り組みです。



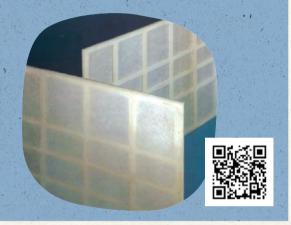




# 輸入合板代替製品で生物多様性に貢献する 三菱ケミカルアドバンスドマテリアルズコンポジット株 式会社(三重県)

http://5actions.jp/select/quadrant/

日本の建築現場で使用されているコンクリート型枠用合板は、東南アジアの地区からの輸入木材に大きく依存しています。自社の「Xシート型枠」を普及させることにより、熱帯雨林を保護し、生物多様性保全に貢献しています。



#### 2017

# YUMEITAプロジェクト 特定非営利活動法人つくしん棒(岐阜県)

http://5actions.jp/select/tukuc/

里山保全を目的に、児童が間伐材から学習机の保護天板を作り、6年間使用します。小学生の頃から木に触れ、森林保全を意識付けます。児童の数だけの間伐材が毎年必要になるため、間伐材を継続的に使い続ける仕組みを有する活動です。



#### 2018

# 「日本初」サステナブル・シーフードの社員食堂への導入による海の生物多様性への貢献パナソニック株式会社(大阪府)

http://5actions.jp/select/panasonic,

社員食堂への「サステナブル・シーフード」の継続導入を通じ、海の豊かさを守る「認証制度の認知向上」や持続可能な食材を選択するという「消費行動の変革」により、海の生物多様性への貢献を目指す活動です。認証ラベル付きでの提供は日本初の取り組みです。



### 2019

# 循環型環境ストレスフリーを実現した タオル生産プロセスの構築 株式会社スマイリーアース(大阪府)

http://5actions.jp/select/smileyearth/

「日本タオル製造発祥の地」である大阪・泉州のタオル製造において、化学薬剤への依存が引き起こしてきた河川汚染問題の改善に寄与する技術開発を実現しました。生物多様性の維持と地場産業の持続可能化に貢献しています。



# 復興支援賞の活動紹介

復興支援賞は、2011年に起きた東日本大震災からの 復興支援活動を応援するために設置されました。

※受賞当時の団体名や活動内容を掲載しています



# 復興支援當

東日本大震災で被害を受けた地域を舞台に、環境の回復・ 再生や調査、地域文化や伝統の継承・保存などを行ってい る活動です。

キーワード: 海洋や生態系のモニタリング、自然回復活動、郷土芸能 や伝統行事の継承 など

#### 2013

# 東日本大震災で失われたアマモ場の再生活動 松島湾アマモ場再生会議(宮城県)

http://5actions.jp/feel/matsushima-amamo/

震災による津波で大部分が失われたアマモ場の再生を目 指しています。「親子で学ぶ松島湾の海辺」(自然観察会)、 残存したアマモ場の調査と花枝採取、アマモ場と漁業の 共生状況に関する調査を行いました。



#### 2014

# 岩手県被災地での「神の森」 ドロノキ植樹プロジェクト

臼澤鹿子踊保存会(岩手県)

http://5actions.jp/conserve/usuzawasisiodori/

400年の歴史を持つ「臼澤鹿子踊」は、東日本大震災の被 災地・岩手県大槌町の伝統芸能です。このプロジェクトで は、鹿子頭に用いるカンナガラの材料であるドロノキを植 樹し、伝統芸能と地域の自然を守っていきます。



## 2015

# いちえふ沖海洋調査 いわき海洋調べ隊・うみラボ(福島県)

http://5actions.jp/show/umilabo/

福島第一原子力発電所沖の海洋調査や、福島の海を伝え るイベントの企画を行っています。また、ブログを通じた情 報発信にも力を入れています。



# 昔の子どもたちから未来の大人たちへあじ島冒険楽校(宮城県)

http://5actions.jp/show/ajisima/

網地島は約400人が住む限界集落です。何もしなければ、 十数年後には無人島になってしまいます。島の昔の遊びで 網地島だけにある魚釣り「あなご抜き」などを、島外の子ど もたちの記憶に残そうと活動を続けています。



#### 2017

## 大谷ハチドリ計画

気仙沼市立大谷中学校(宮城県)

http://5actions.jp/conserve/kesennuma/

三陸の豊かな自然に恵まれた大谷。しかし、その自然に松枯れや磯焼けなどの異変が生じ、地域の暮らしを支えてきた農林水産業も衰退しています。こうした事態から大谷の自然と暮らしを再生し守ろうと、子どもたちがさまざまな活動に取り組んでいます。



#### 2018

# 舞根湿地を活かして森・里・川・海をつなぐ 特定非営利活動法人森は海の恋人(宮城県)

http://5actions.jp/conserve/moriumikoi/

気仙沼市舞根湾において東日本大震災が生態系におよぼした影響をモニタリングし、それに基づいて環境教育や啓発活動を行いました。活動の意義が地域に浸透したことで、震災で生じた塩性湿地の保全を実現化できました。



## 2019

# 網地島ふるさと楽好 限界集落の社会貢献網地島ふるさと楽好(宮城県)

http://5actions.jp/feel/ajishima2019/

虐待孤児や震災孤児を、毎年の夏に網地島へ無料で招待しています。島の自然の中で、島のおじいさんが海から取った魚介類を島のおばあさんと会話しながら料理し、みんなで食べる機会を設けています。活動を通して大切にされ愛される記憶を持ってもらい、自分がかけがえない大切な存在であることを知ってもらうことを目的としています。



# 生物多様性アクション大賞の成果 2

生物多様性アクション大賞を受賞したことで、 活動にどのような効果や影響があったのでしょうか? 受賞団体にアンケートを実施し 30団体から回答いただきました。

調査期間 1回目 2018年6月18日~28日

2回目 2020年3月18日~25日

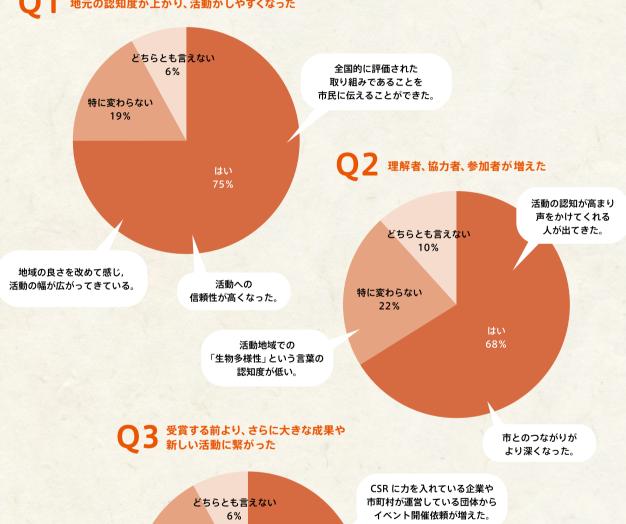
調査対象 生物多様性アクション大賞 受賞団体\*

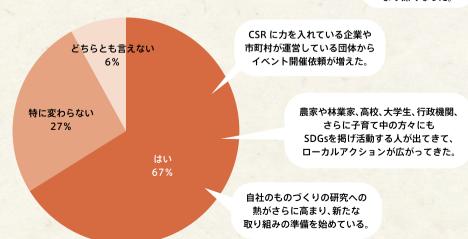
※「優秀賞」「特別賞」を受賞した団体

調査方法 インターネットを利用したアンケート調査

回答数 30団体

# 1 地元の認知度が上がり、活動がしやすくなった





# ▲ その他、授賞による効果や影響、感想

受賞の新聞記事を見て、取材させて欲しいとの 連絡があり記事になりました。ホームページへも、 アクション大賞経由のアクセスが増えました。 全国レベルの賞を受賞したことは大きな自信となり、 気持ちの上でも活動しやすくなりました。

> 特定非営利活動法人つくしん棒 2017年 えらぼう部門優秀賞

数ある応募団体から私たちの活動を 選んでくださったことが自信につながりました。 大学生はプレゼンをしたことが楽しく、 良い経験になったようです。

> 川名里山レンジャー隊 2019年 ふれよう部門優秀賞

福井県の林業部門から、当倶楽部の活動を 発表するよう依頼がありました。 シロップに関する県主催の商談会にも、 応じることにしました。

株式会社 森と暮らすどんぐり倶楽部 2016年 たべよう部門優秀賞

子どもたちや地域の皆さまの 大きな自信と誇りにつながりました。

> 石巻市立大原小学校 2017年 たべよう部門優秀賞

とてもマイナーな活動を人知れずしていたので、 賞をいただいたときは、正直信じられませんでした。 本当に嬉しかったです。

> 富士山アウトドアミュージアム 2016年 まもろう部門優秀賞

市民団体

人間都合と思われかねない獣害対策活動も、 受賞により生物多様性を守る活動と 認識してもらえるようになりました。 受賞を励みに全国、世界に広がる活動にしていきたいと 本気で考えられるようになりました。

> くまもと農家ハンター 2019年 農林水産大臣賞

地域やさまざまな環境団体様に活動を知っていただいた ことにより、環境イベントへの参加依頼や 自然観察会の業務委託をいただきました。 また同業他社から活動を見せていただきたいとの 依頼もありました。

2017年 環境大臣賞

株式会社加藤建設 企業

> 授賞式後の出席者同士の交流がよい体験でした。 情報交換だけにとどまらず、 次の活動へのステップにつながりました。

兵庫県立御影高等学校環境科学部生物班 2017年 セブン・イレブン記念財団賞

学校

# 「生物多様性の10年」から「生態系回復の10年」 そしてSDGs「行動の10年」へ





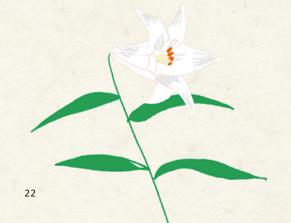
(生物多様性アクション大賞 審査委員長/IUCN日本委員会会長)

2010年10月に生物多様性条約COP10が 愛知県名古屋市で開かれ、2週間の会期の最終 日、日付も変わった深夜に、自然との共生を長期目標に掲げた「愛知目標」が採択されました。 自然との共生を実現するためには、原生的な自然を守るだけでなく、都市や農山漁村、海も含めた国土全体で人と自然のバランスを取り戻していくことが必要です。そして、行政だけでなく、市民団体、ビジネス、学校、研究者、生産者から消費者の皆さんまで、さまざまな立場の人たちが立ち上がり、行動を起こすことが欠かせません。

日本の市民団体がCOP10に向けて提言をまとめるなかで、2020年までの10年間は生物多様性にとって大変重要な期間なので「国連生物多様性の10年」にしよう、というアイデアが生まれました。その提案が国連総会の場で採択されたのです。愛知目標の達成年までの10年間の行動を積極的に展開していくために「国連生物多様性の10年日本委員会」(UNDB-J)が設置されました。

生物多様性アクション大賞は、自然との共生をめざした動きが全国の現場から湧き上がってくるようにと、UNDB-Jが2013年に提唱し始めたものです。「MY行動宣言5つのアクション」を普及させていくため、「たべよう」、「ふれよう」、「つたえよう」、「まもろう」、「えらぼう」の5部門にわたり、地域に根ざした活動に光をあてて募集してきました。2019年までの7年間にのベ792団体という、予想を超える多くの人たちから応募をいただきました。

2016年から私も審査に加わりました。例年、100件を超える応募があって、活動の対象地は森・里・川・海にわたり、市民団体、企業、学校、個人など、さまざまなセクターからの実に多様な活動内容が集まってきました。審査委員は皆、真剣で白熱した議論を夜遅くまで続け、優秀賞はじめ各賞の受賞団体を選びました。晩秋の頃には受賞団体が一堂に会し、各団体から活動の発表が行われました。発表を聴いて、直ぐに大賞(大臣賞)を決めなければなりません。毎回、悩みに悩みながら選んだことが思い起こされます。賞を発表する時、私がいつも感じたことは、大賞かどうかに関わらず、応募いただいた活動がいずれも本当に素晴らしい活動だということです。





# 誰もが自然に包まれて ▼ 幸せを感じられる社会をつくっていこう

ここ数年の受賞団体の活動を振り返ってみると、地域の資源や知恵を見つめ直し将来に活かしている点、環境を守るために社会システムの転換をめざしている点、経済の仕組みを上手く使って課題解決を進めている点、ユースからシニアまで多世代参加型のパートナーシップをつくり出している点などの特徴があげられます。まさに環境、社会、経済の統合的なアプローチが求められるSDGs時代を象徴する活動が数多くみられるようになってきたと感じます。こうした活動が全国に伝わっていくことで、社会を大きく変えていけると確信しています。

私が審査に関わって心に残っている場面を 紹介します。2016年の授賞式で、全国から熊 本県の阿蘇に集まった子どもたちと共に、持続 可能な農業の未来の担い手を育成する「リト ルファーマーズ養成塾」に参加した大津讃太郎 君(当時小学2年生)が、自分たち自身で何をす べきか考えながらファーマーズマーケットを開 くための活動を行ったことを発表しました。そ して「将来は農家になりたいです」という言葉 で5分間のプレゼンを締めくくりました。大賞に は選ばれなかったものの、審査委員一同、讃太 郎君の想いを讃えたいと感じ、その場で急きょ 「未来賞」という特別賞を設けて贈りました。2 年後、阿蘇を訪ねた際に、讃太郎君が未来賞の 木製トロフィーを大事に携えて私に会いに来て くれました。自分の想いを大切にして歩みを進 めている讃太郎君に再会して、これからもエー ルを送っていきたいと強く思いました。

「生物多様性の10年」に続いて、2021年から「生態系回復の10年」が始まりました。悪化に歯止めをかけることから回復に転じることをめざす10年です。東日本大震災以降、頻繁に自然災害が発生し、さらに新型コロナウイルスのパンデミックが私たちの暮らしに大きな影響を与えています。国土全体の生態系の回復を進めるなかで、自然災害や感染症などの大きな影響を受けにくいレジリエントで持続可能な社会をつくり出していくことが大切です。それは2030年までにSDGsを達成するためにさまざまな取り組みのスピードを速めていくSDGs「行動の10年」にとっても重要なテーマと言えます。

生物多様性アクション大賞に応募いただいたすべての活動がけん引役となって、生物多様性の意識や行動が社会に広がっていけば、次の10年を動かす大きな力になると思います。毎年、授賞式で司会を務めた櫻田彩子さんが「ハッピーアクション!」と参加者の皆さんに呼びかけ、励ましてくれました。誰もが自然に包まれて幸せを感じられる社会をつくっていく、そのためのアクションを皆の力を結集して進めていきましょう!



#### 謝辞

生物多様性アクション大賞の実施にあたり、以下の企業・団体・個人の皆さまのご支援、 ご協力をいただきました。主催者として深く御礼を申し上げます。(敬称略)

共催 一般財団法人セブン-イレブン記念財団

協賛 前田建設工業株式会社

セキスイハイム 株式会社JTB 森ビル株式会社

キリンホールディングス株式会社

特別協力 公益社団法人国土緑化推進機構

経団連自然保護協議会

協力 富士フイルム株式会社

後援 環境省 農林水産省 生物多様性自治体ネットワーク

朝日新聞社 共同通信社 日本経済新聞社 毎日新聞社 環境goo

広報協力 環境省環境パートナーシップオフィス(EPO北海道 EPO東北 関東EPO EPO中部

きんき環境館 EPOちゅうごく 四国EPO EPO九州)

株式会社オルタナ Green TV japan 社会福祉法人高知県社会福祉協議会

一般社団法人シンク・ジ・アース ジャパン・フォー・サステナビリティ

地球環境パートナーシッププラザ 株式会社図書館流通センター 日本NPOセンター

審査委員長 吉田正人(2013-2015) 渡辺綱男(2016-2019)

審査委員 足立直樹 小野弘人 沖修司 梶谷辰哉 川廷昌弘

坂田昌子 道家哲平 星野智子 三輪隆

環境省/農林水産省ご担当者様

生物多様性アクション大賞 アンバサダー

さかなクン

事務局 一般社団法人CEPAジャパン

理事 イノウエヨシオ 上田壮一 川上典子 川廷昌弘 坂田昌子

佐藤正弘 服部 徹 水野雅弘 森良 宮本育昌

#### 生物多様性アクションブック

発行元 国連生物多様性の10年日本委員会 (UNDB-J)

発行 2021年3月31日

企画 川廷昌弘(CEPAジャパン)

編集 上田壮一(CEPAジャパン) 松本麻美

デザイン清水 徹イラスト石坂しづか制作曽我直子

英語版翻訳 森川由理

協力 イノウエヨシオ 宮本育昌 坂田昌子 星野智子

※ 本冊子の制作にあたって以下の企業・団体から御協賛をいただきました。 厚く御礼を申し上げます。

経団連自然保護協議会

公益社団法人国土緑化推進機構

前田建設工業株式会社

©国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)

